

apoptosis

札幌市医師会
札幌西の峰病院

やまもと けんじ
山本 健治

令和4年度新型コロナウイルス感染対策予備費5兆円。

困窮学生への緊急給付金総額700億円。50倍以上がコロナ関連。未来を縮める自死のようです。

(私はこの騒動に貢献できたのか。発熱の鑑別はコロナ一択脳になっていないか)

(私はコロナ特需じゃないのか)

胸に手を当ててみる。(免疫ってなんだっけ。ワクチンってなんだっけ)

このお金で救われているのは私だ。疾しい気分になる時があります。

松田政策研究所チャンネルやこどもコロナプラットフォームをご存じですか。

オミクロンならぬ、オ○さんの病院がコロ○病棟でどれだけ利益を得たかなど事実がわかります。

さて、日本RNA学会というサイトにたどり着きました。mRNAワクチンについて本気で真剣に考えている。ワクチンを接種して欲しい側の真剣さです。十分な説得力です。

私は無知な薬売りに過ぎないと自信は無くなりましたが。笑。

一方で、国体や政体のやることなすことの不自然さに翻弄され疲弊し、生存をかけて研ぎ澄まされた瞳を得た市井の人々は覚醒そして進化する。いつの日か火山のように突然噴火するのでしょうか。富士山の別名は不死山です。頑張ってください。

YouTubeではコロナ、ワクチンが禁句で削除されて久しい。2年以上前に論文投稿しましたが、査読でも端的な表現は訂正された記憶があります。最後は婉曲した表現に妥協して論文は意見として採用された。現在の困窮する現実社会の加速への抵抗力にもなってません。

私個人の無力の言い訳が欲しい。気がつけば悲観的な自分がある。

最近、副作用症例報告をとある学会に提出する機会がありましたが、やはり不採用でした。

伝えたい必死さより待つ冷静さが必要だ。仕方ない。無知の罪だから。悔しいですがそう思います。明るさと希望、そして未来が一番大切ですから。

さて、日本RNA学会会報には私にとって大変、刺激的な内容です。

聞き飽きた情報と深みが違う。まるでct値を下げたようなシャープな情報を数例記載してみましよう。

* コロナウイルス自体のmRNA転写合成メカニズムが不明。

* 転写をはじめのキャッピングの酵素遺伝子のコードが不明。

* コロナウイルスの不連続転写の危険性。

* 作製される新型コロナmRNAは自然免疫を回避し、s蛋白の抗原性を高めていく。

* 今後は細胞性免疫をも避ける環状mRNAワクチンの作製予定。

* アビガンは出来損ないの抗がん剤という不遇の歴史を持つ。構造式がシンプル過ぎて密造できる。

* イベルメクチンが効果的な薬剤ならその作用機序は核内に作用しうる。不安定で直ぐにリボゾームで分解されmRNAは核に移行しないとされる常識が覆るかも。

何回読んで、流れるような理解には至りませんが、学問の厳しさがヒリヒリと心地よい。

本来なら、あちこちで、相反する意見が並列に並び、冷静で開けた自由で活発な議論の先に真実が宿るのでしょう。

最後に。参考文献5)はs蛋白の抗原部位を選択することでADE(抗体依存性感染増強)を生じにくくする抗体作製など特に示唆に富む知見であることを付言します。

本文のタイトルは東大児玉名誉教授のコロナ自死説ではなく、好きな髭ダンの曲より拝借しました。機会があれば参考文献を手にとってみる価値はあると思います。

参考文献

- 1) 上久保靖彦:ここまでわかった新型コロナ. ワック株式会社, 2020
 - 2) 小林よしのり、井上正康: コロナとワクチンの全貌. 小学館新書, 2021
 - 3) 近藤誠: 新型コロナワクチン副作用が出る人、出ない人. 小学館, 2021
 - 4) 宮沢孝幸: 京大おどろきのウイルス学講義. PHP新書, 2021
 - 5) 村上康之: すべての新型コロナ変異株に対応? 「口内に噴霧」の非mRNA型予防薬、商品化へ, ForbesJapan web 2021
 - 6) 長尾和宏: ひとりも、死なせへん. ブックマン社, 2021
 - 7) 中村篤史: コロナワクチン, 被害症例集. ヒカルランド, 2021
 - 8) 岡田正彦: 大丈夫か, 新型ワクチン. 花伝社, 2021
 - 9) 大橋真: 新型コロナワクチンの闇. 知玄舎, 2021
 - 10) 大橋真, 細川博司: PCRとコロナと刷り込み. ヒカルランド, 2021
- * *) 日本RNA学会会報 (web)